




審査結果の要旨

報告番号	乙 第 2944 号	氏名	今井 徹朗
審査担当者	主 査 副主査 副主査	平木 照之 溝口 亮志 高須 修	  
主論文題目：Single needle granulocyte and monocyte apheresis for ulcerative colitis : A retrospective safety analysis (和訳)：潰瘍性大腸炎に対する顆粒球と単球のシングルニードルアフェレシス：遡及的安全性分析			

審査結果の要旨（意見）

潰瘍性大腸炎の治療法の 1 つである顆粒球除去療法を行う際のバスキュラーアクセスとしては、通常末梢静脈の 2 回穿刺によるダブルニードル (DN) 法で行う。しかし、潰瘍性大腸炎患者では、血管の確保が困難なことが多く、患者およびスタッフ両者ともに負担が大きい。本研究は血液透析で行われているシングルニードル (SN) 法を潰瘍性大腸炎患者に対して行い、その有用性と安全性を検討した研究である。SN 法は DN 法に比べ、スタッフの省力化と患者負担軽減を得ることができたこと、また回路内凝固割合に差を認めなかったことを示した。潰瘍性大腸炎患者への顆粒球除去療法での SN 法の有用性と安全な治療手法であることを示した論文であり、臨床的にも意義深く、学位論文としてふさわしい。

論文要旨

顆粒球除去療法 (GMA) は、活動性潰瘍性大腸炎 (UC) に対する効果的な治療法である。GMA は通常 2 本針 (DN) で施行するが、患者の負担軽減のため 1 本針の治療法、シングルニードル (SN) の有効性と安全性を検討した。

2014 年 5 月から 2018 年 5 月の間に、久留米大学病院で SN または従来の DN で治療した活動性 UC 患者の治療効果、治療導入までの時間などを比較した。2 つのグループは異なる期間で施行している。SN の有効性と安全性を評価した。

SN による GMA を受けた患者 100% と DN による GMA を受けた患者 85% に改善が見られ、有意差は認めなかった。寛解率は SN による GMA で 50%、DN による GMA で 50% であり有意差を認めなかった。GMA 治療導入までの平均時間は DN で 23.1 分、SN で 12.6 分と大幅に短縮された。また穿刺困難の数は、SN によって有意に減少した。SN と DN 間に有害事象に差はなかった。

SN による GMA は DN との治療効果に差を示さず、治療導入までの時間を短縮させたことにより、患者 QOL とスタッフの省力化に寄与した。